

「海星中学校の郷土芸能伝承活動の取組」
～ 長浜地区「長浜波濤太鼓」・鹿島地区「鹿島太鼓」 ～

1 学校名

薩摩川内市立海星中学校

2 学年・人数

長浜地区生徒(6人) 鹿島地区生徒(10人) 計16人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年9月～10月 海星中(長浜波濤太鼓)

令和2年9月～10月 鹿島地区コミュニティーセンター(鹿島太鼓)

(2) 発表の日時・場所

【長浜波濤太鼓】

令和2年11月7日(土) 本校文化祭(海星中)

【鹿島太鼓】

令和2年8月23日(日) 甕大橋開通記念式典

令和元年11月7日(土) 本校文化祭(海星中)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 長浜波濤太鼓(長浜地区生徒)

ア 由来

- 昭和五十九年、地域興しの一環として、新たな郷土芸能をと、青年層を中心に発足した。冬荒れ狂う海の壮絶さと、どこまで青く澄んだ穏やかな海をイメージして作られた勇壮な太鼓である。

イ 構成

- 大太鼓、中太鼓、締太鼓で構成している。参加人数で構成が異なる。甕島の海の波の様子をイメージし、打ち方で表現している。

(2) 鹿島太鼓(鹿島地区生徒)

ア 由来

- 昭和55年鹿島村郷土芸能保存会が組織し、新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行った。その後、婦人会を中心に継承し、鹿島小中(中：現在休校)の児童生徒が練習し、文化祭などで披露してきた。

イ 構成等

- 大太鼓、中太鼓、締太鼓、小太鼓で形成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジしている。

5 保存会や地域との連携の具体

伝統芸能の伝承については、各地域の保存会が中心となり、取り組んでいる。そのため、学校は教育活動に位置付けることはないが、各地域担当職員

が保存会と連携したり，時には生徒とともに参加したりし，伝承活動を積極的に支援している。本校文化祭や各地域の行事において披露してもらっているが，今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域行事が中止となっている。

6 文化財伝承活動の取組の工夫

本校では小中一貫教育において，地域での伝統芸能を小学校5年～中学1年生がその由来や特徴を取材し，3年に一度ではあるが，壁新聞を作成している。そのため，生徒は各地域の伝統芸能に高い関心をもっている。

7 取組の様子



【文化祭（波濤太鼓）】



【文化祭（鹿島太鼓）】

8 参加児童生徒・保護者・保存会の感想・意見

【生徒】

- ・ 文化祭で披露するのは今年で最後だったので，精一杯たたきました。後輩に後をしっかり受け継いでいって欲しいと思います。保存会の方々練習，指導等ありがとうございました。
- ・ 今年は地域生徒数が少なかったのですが，先生方の協力をもらいました。練習はきつかったけど，文化祭で，先生方や仲間と一緒に出演でき，最高の思い出になりました。

【保護者】

- ・ 地域の伝統芸能をきっかけに，地域やふるさとを大事にする気持ちを大切にしてほしいです。来年度は海陽中と統合ですが，伝統芸能を伝承してもらい下甕島を盛り上げて欲しいです。

【保存会】

- ・ 本年度は先生方にも協力していただき，練習や当日の出演も上手くいきました。児童生徒が少なくなっていく中で，郷土芸能をどうにかして伝承していくかが課題ですが，子どもたちが，島立ちしても郷土（甕島）を思う気持ちを忘れず，一生懸命頑張ってもらいたいと思います。